

《担当者名》 内ヶ島 伸也 ucci@hoku-iryu-u.ac.jp 山田 律子 船橋 久美子 若濱 奈々子

【概要】

加齢や疾病が生活機能におよぼす影響を理解し、高齢者の自立的な生活を支援する看護の視点と方法を学ぶ。実習は、1人の高齢者に対して看護活動を実践する受け持ち実習(3週間)と高齢者の在宅生活を支える施設での体験実習(1週間)で構成される。

【学修目標】

1. 疾病や障害をもちながら自己の可能性を探索しつつ生きる高齢者について理解を深める。
2. 老化と疾病によって複合的に起こる身体的・精神的・社会的変化をアセスメントし、ケアを計画・実施・評価するプロセスを実践的に学ぶ。
3. 高齢者と家族をとりまく保健・医療・福祉システムの現状を知り、多職種との協働を通して看護の役割について考える。
4. 看護職としてふさわしい態度、倫理的な行動、専門性を発展させていくための継続的な学習姿勢を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	受け持ち実習	・受け持ち高齢者の情報収集とアセスメントを行う ・高齢者の全体像を把握し、看護の焦点を明確にする ・指導を受けながら生活支援を実施する	内ヶ島、山田、船橋、若濱
2週目	受け持ち実習	・看護計画を立案する ・看護計画に沿って生活支援を実施する ・実施内容を評価して具体策を修正・追加する	内ヶ島、山田、船橋、若濱
3週目	受け持ち実習	・看護計画を評価する ・実習の成果をまとめ、報告する	内ヶ島、山田、船橋、若濱
4週目	体験実習	・介護サービスを利用する高齢者のニーズを理解する ・介護サービスを提供する施設の特徴を理解する	内ヶ島、山田、船橋、若濱

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習参加姿勢・実習内容・記録物を総合的に評価する。

【教科書】

山田律子・萩野悦子・内ヶ島伸也・井出訓(編)「生活機能からみた老年看護過程」第3版 医学書院, 2016.
北川公子他「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」第9版 医学書院, 2018.

【学修の準備】

1. 「老年看護学」「老年病態論」「保健医療福祉行政論」「老年看護学演習」の学習内容から、老年看護展開の考え方、加齢変化や高齢者に多い疾患・障害の病態と看護、保健医療福祉制度について、実習前までに復習しておく。
2. 受け持ち実習では、受け持ち高齢者の疾患と治療に関する学習や生活援助を実施するための事前学習を済ませておく。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2, 1, 3, 4

【実習方法】

実習期間：3年後期の指定された4週間(受け持ち実習3週間、体験実習1週間)

受け持ち実習：2021年9月6日～11月26日

体験実習：2022年1月24日～1月28日、2月21日～2月25日

実習施設：指定された病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、介護医療院、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護、通所介護

【実務経験】

内ヶ島伸也(看護師)、山田律子(看護師、日本摂食嚥下リハビリテーション認定士)、船橋久美子(老人看護専門看護師)、若濱奈々子(看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

高齢者看護の実務経験に基づいて、高齢者の生活機能と環境をアセスメントし、看護計画立案と生活支援の方法を実践的に教育する。生活支援の実施においては、看護職以外の専門職からの指導も積極的に受けながら、多職種協働について教育する。